

懸念される健康状態

新日曜
本社 座り込みの水俣漁協代表

水俣病の被害補償を要求する水俣市漁協の代表三千四人が新日曜東京本社前に座り込んで十日を過ぎたが、事態に何の進展もみられず、このままでは病人を出すのではないかと、健康問題を心配する関係者の声が高まってきた。

さる十二日の国会水俣病特対委で知事あつせんによる解決策が出されたが同漁協は「手ぬるい」と不満を表明して座り込みをつづけているもの。

水俣市漁協では地元で仲介者を入れて解決しようとして十八日、石原同市助役、斎所、鬼塚同市議会水俣病特対委正副委員長が上京。「同市と地元の関係者による納得のいくあつせんを行なう用意があるの」で帰るよう「説得した。しかし松田委員長ら漁協代表は「心配して上京してくれた好意はうれしい。だがわれわれは解決しなければ死んでも帰らぬ」と組合員に約束して来た以上、はつきりした会社の面

面がなければならぬ」とつづねた。石原助役らは二十日までできるだけ説得につとめるといっており、十九日には上京中の寺本知事からも説得してもらう予定である。

(東京支社)